



単元（題材）目標

- 関心のあることから話題を決め、調べたことを理由や事例などを挙げながら筋道を立てて工夫して話すことができる。
- 話の中心に気をつけて聞き、質問したり感想を述べたりすることができる。

(1) 実施時期 9月7日～26日

(2) 対象（学年等・人数） 第4学年1組 39名

(3) 指導者（教諭・外部講師等） 担任1名

(4) 実施内容

教材 「手と心で読む」 （光村図書）

指導計画

- ① …… 「関わり合う」というめあてについて話し合い、点字や手話を体験する。
- ② …… 資料「手と心で読む」を読み、学習計画を立てる。
- ③④ …… クラスの人に伝えるという目的で、テーマと調査内容を考える。
- ⑤⑥⑦ …… 調査メモをとりながら計画に沿って調査する。
- ⑧⑨ …… 情報を分類整理し、発表原稿にまとめる。
- ⑩⑪⑫ …… 聞き手を意識した発表を工夫し、感想交流をする。
- ⑬⑭ …… 発表会を行い、学習の振り返りをする。

児童の課題

- ・ 普段使う手話 ・ 手話の歴史 ・ ローマ字の手話や数字の表現
- ・ 気持ちを表す手話 ・ 味はどうやって伝えるか ・ 手話のなりたち等

内容と感想

- 夏休みに福祉体験に参加して興味をもったので、調べてみた。
- 耳の不自由な方に「危ないですよ。」等と教えてあげたいから選んだ。
- 「うれしい」は胸が躍っている様子で表し、「かなしい」は涙が落ちる様子。
- 見つめ合うことから始まり、お互いに分かり合おうとすることが大切だ。
- 顔の表情や体を動かしたりする手話は、心のこもったパフォーマンス。
- 手話と口を同時にはっきりと動かして、ボールを投げて返すようにする。
- 手話は目で見る言葉。もっとたくさんの人が手話を知れば、耳の不自由な方や話すことができない人の暮らしがもっとよくなると思う。

(5) 成果

まず、身の周りの洗濯機やシャンプーの容器などにある小さな点から、子どもたちは興味・関心をもち、聴覚障がい者に寄り添って考える機会を得ました。どのようにして聴覚障がい者に危険を知らせるか、自分の名前を知ってもらうか、手話の資料から解決方法を導き出そうとしていました。発表に向け、手話の練習に励んでいましたが、多くの子どもたちが手話の形ではなく、心で繋がることの大切さを感じ取っていたと思います。

